

第9回 苫小牧市男女平等参画を推進する市民会議 会議録（概要版）

日程：令和3年12月22日(水) 14:00～16:00

会場：苫小牧市役所9階会議室

▼事務局

皆様、こんにちは。定刻となりましたので、ただ今から「第9回苫小牧市男女平等参画を推進する市民会議」を開催させていただきます。本日の進行を務めさせていただきます、協働・男女平等参画室の星でございます。よろしくお願いいたします。

<宣言唱和>

▼事務局

始めに、苫小牧市男女平等参画都市宣言の唱和を行います。これは、北海道で初めて平成25年11月17日に宣言したもので、宣言文に込められた理念の普及・啓発のために唱和を行わせていただくものでございます。本来でありましたら、一緒に御唱和をしていただくところでございますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、私が読み上げますので、皆さんは黙読をお願いいたします。

（ 宣 言 文 唱 和 ）

ありがとうございました。それでは、ここからの進行は、市長、よろしくお願いいたします。

<市長挨拶>

▼市長

はい、それでは、年末それぞれに御多用な中、ご出席いただいた皆様に、まずは心より御礼申し上げたいと思います。昨年、今年と、コロナ禍で、やろうとしていた事がオンラインになったり縮小したり、予定通り100%行うということは、ここだけの話しではありませんが、なかなか厳しい状況ではありましたが、特に自分らしさ応援EXPOにつきましては、様々なプロセスで皆様方に御協力をいただき、オンラインということになりましたけれども、おかげ様で開催をすることができたわけであります。同時に市民アンケートにつきましても、皆様から大変な御協力をいただきまして、後程説明があろうかと思っておりますけれども、一定の成果を得る事ができたのではないかと考えております。

今日は、そうしたコロナ禍での取り組みについて、経過あるいは結果についてこれから説明をさせていただきますけれども、まあやっぱり段々段々、世の中このジェンダーの問題というのが、様々な課題の主軸に近付きつつあるなということをつくづく感じます。それは人権の問題とか、様々な伝統的な問題だけではなくて、先週東京に出張しておりましたけれど

も、苫小牧に製造部門を持っている本社を回ってもですね、やはりこのジェンダーの問題とゼロカーボンの問題というのが今一番関心があるな、ということを感じたところでございまして、経済問題だけとって考えても、やっぱりこれからこのジェンダー問題とどう向き合っていくのか、ということを考えなければ、女性のさらなる活躍と言葉では言うておりますけれども、本気になってこれをやらなければ、人手不足、あるいは人手確保の問題が、非常に重い問題になりつつある日本でありますので、そういう観点からも、こうした動き、ジェンダーの動きを加速していく必要があるのではないか、そういう時代の要請があるのではないか、ということを感じてございまして、そんな背景、この地元苫小牧もそうでありまして、そういう背景の中で我々市民会議で様々なミッションをやっているわけですが、これからその報告を聞いていただきたいなと思います。

<ミッション1:「固定的役割分担意識」や「無意識の偏見」に気づくきっかけを提供し続けるに係る“自分らしさ”応援 EXPO の開催結果について>

▼市長

それでは令和3年度、自分らしさ応援 EXPO の開催結果につきまして、事務局から説明をしたいと思います。

▼事務局

協働・男女平等参画室の早出です。今年の10月から、動画配信やパネル展にて実施いたしました「自分らしさ応援 EXPO」の開催結果についてご説明いたします。資料2の1ページをご覧ください。

「自分らしさ応援 EXPO」は、皆さんご存じのとおり、市民会議のミッションの1つである「『固定的役割分担意識』や『無意識の偏見』に気づくきっかけを提供し続ける」を達成するため、令和2年2月に実施しました第4回の市民会議後から準備を始め、コロナウイルス感染症拡大の影響による令和2年度の中止を経て、1年半議論を重ね、令和3年10月からオンラインでの動画配信及びパネル展を実施し、開催いたしました。

まず、開催内容と結果をご説明いたします。

はじめに、著作権の都合から、申込を行った方だけに10月1日～10月10日までの期間限定でオンデマンド配信した2つの動画についてご報告いたします。立教大学教授の萩原なつ子氏を講師にお招きした「市長と多世代ワールドカフェ」は、39人から視聴申込をいただき、再生回数は33回でした。東京大学准教授の星加良司氏を講師にお招きした「視えないから見える世界～ダイバーシティ推進の意義と方策～」は、38人から視聴申込をいただき、再生回数は62回でした。

その他、申込不要・期間等の限定なしで公開した動画につきましては、「市長挨拶」の再生回数は、現時点で190回となっております。「見てください！聞いてください！女性議員

のリアル」の再生回数は現在 112 回、またこの動画は、苫小牧ケーブルテレビにおきましても繰り返し放送されました。次に「ロールモデルカフェ」は、合計 4 本の動画を公開し、総再生回数は現在 680 回。「みんなでワイワイ子育てイベント」は、2 本の動画を公開し、総再生回数は現在 313 回です。「パパから始めよう我が家の子育て」の再生回数は現在 48 回、「ザ・ドキュメント～建設現場で輝く女性たち～」の再生回数は現在 165 回です。これら全ての動画の総再生回数は合計で 1603 回となっており、多くの皆様に男女平等参画に関する動画をご視聴いただけた結果となりました。なお、これらの動画は来年の 3 月末まで公開しておりますので、引き続き、職場や家庭等での周知をお願いいたします。

続きまして、パネル展についてご説明いたします。

パネル展は、10 月 1 日～8 日に、「苫小牧市民 1 万人アンケート～老若男女のリアルボイス～」の集計結果を市役所 1 階エレベーターホール前で、「働きやすい職場のための取組紹介」を市役所 12 階展望回廊で、それぞれ実施しました。また、「男女平等参画の変遷」は、12 月 17 日～18 日に市民活動センター 1 階ギャラリーにて実施いたしました。

パネル展の効果測定は難しいものの、パネル展会場で「あなたは自分らしく暮らしていますか」や「仕事と生活のバランスはとれていますか」の間についてシールで回答していただきましたところ、それぞれ 37 人、36 人で合計 73 件の回答を得ることができました。また、「男女平等参画の変遷」には、約 90 名の方が御来場くださいました。新聞にも取り上げていただき、多くの方にパネルをご覧いただけた結果となりました。

資料 2 の 5 ページには、「働きやすい職場のための取組紹介」で展示しました一部のパネルを掲載しておりますので、ご覧ください。10 社の皆様にご協力をいただきまして、ワーク・ライフ・バランスについて啓発することができました。ご協力いただきました企業の皆さまには重ねて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

これらのことを踏まえまして、「自分らしさ応援 EXPO」を実施することにより、男女平等参画についての啓発ができたと考えられ、市民会議のミッション 1『固定的役割分担意識』や『無意識の偏見』に気づききっかけを提供し続ける」の達成に貢献できました。改めまして、「自分らしさ応援 EXPO」の企画から動画作成、パネル作成にご協力いただきました皆様に、御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

また、「自分らしさ応援 EXPO」の実行委員として、応援団メンバーをご推薦いただきましたが、コロナウイルスの影響で予定どおりの運営ができず、応援団メンバーの方との協働が限定的になってしまったことをご報告いたしますとともに、応援団メンバーとして参加していただいた方及び応援団メンバーをご推薦いただきました皆さま方に感謝申し上げます。

その他の市民会議事業として、11 月 3 日に市民会館小ホールにて、恵泉女学園大学学長の大日向雅美氏を講師にお招き開催した講演会「家族だけではなく地域で支える子育て」を

開催いたしました。77名の市民の方にお集まりいただき、地域で子育てを支える重要性についてお話しいただきました。また、来年の1月21日には、「カードゲーム『2030SDGs』」を、オンラインで開催予定でございます。

「自分らしき応援 EXPO」開催結果のご報告は以上です。

▼市長

はい、今の説明について、ご意見、あるいはご質問等ございましたらご発言をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。よろしゅうございますか。

最後にも、今日気付いた事等を共有いただく時間を設けたいと思います。では次第にのっとなって、ミッション2に移りたいと思います。これについても事務局からお願いします。

<ミッション2:「10歳までの子どもを安心して預けられる環境を充実させる」について>

▼事務局

「10歳までの子どもを安心して預けられる環境を充実させる」の達成に向けた取組みについてご説明いたします。資料3の1ページをご覧ください。

第6回市民会議の後に、「ミッション2を達成させるためには」という題で皆様からご意見を頂戴いたしました。いただいたご意見は、

- ・ 保育施設の設置・増設について
- ・ 地域資源の活用について、保育人材の育成・確保について
- ・ 育児休暇の義務化

などでした。ここでいただいたご意見をもとに、前回第8回の市民会議では、「子育てアプリ」について研究したいということで、皆さまからご意見を頂きました。

ご意見の内容は、「安全性を考えると、子どもを保育する人は保育士等の有資格者とするべき」「お金のやりとりはトラブルの原因となるので、決済の方法についてルール化をする必要がある」「アプリということで不健全な印象を受ける方が多いのでは」等でした。また、周知方法について、「母子手帳交付時、市役所の窓口、学校や保育所等での周知が効果的ではないか」というご意見や、活用するメリットについて、「転勤者の多い苫小牧でアプリを導入することは、単発で保育ができるため転勤族の配偶者の方の保育士資格等を生かすことができるのでは」といったご意見をいただきました。その他のご意見として、「アプリは良くできている、アプリを導入するのはおもしろい」「アプリを導入するには安心が必要」「全国の事例を集めて苫小牧に合ったものにしていけば良いのでは」といったご意見も頂戴いたしました。

また、ミッション2を達成するためのもう1つの切り口であります「ワーク・ライフ・バランス」についてもご意見を頂戴いたしました。

主なご意見は「男性が育児休暇を取れるような支援が必要」「ワーク・ライフ・バランスを推進できている好事例の発表の場を作ると良い」「事務の合理化やRPAなどの取組みを行うしかないのでは」「変わってきていることは実感できている、働く側も労働者も選択肢が多いと良い」等でした。

これらを踏まえまして、ミッション2:「10歳までの子どもを安心して預けられる環境を充実させる」について検討した結果をご報告いたします。

第6回市民会議でいただきました保育環境の充実に関するたくさんのご意見につきましては、それぞれについてすぐに実現することが難しいですが、市の関係各課と共有して行きたいと考えております。また「子育てアプリ」につきましては、保育の安全性の問題、決済方法のルール化など解決すべき問題がある一方で、導入にメリットもありますので、保育の担当課に案内し引き続き導入について検討していきたいと考えております。「ワーク・ライフ・バランスの推進」につきましては、企業ごとに進み方や抱える課題が様々であることや、好事例の発表機会として市が開催していた企業表彰は参加企業がなかなか集まらない現状にあることなどから、それぞれ多様な状況において、どうすればワーク・ライフ・バランスを推進していけるのかを引き続き市民会議にて検討していきたいと考えております。

ミッション2に関する説明は以上です。

▼市長

はい、ミッション2の説明がありました。ご意見、あるいはご質問等がございますか。

▽メンバー

子育てアプリの話がございましたが、これ実際に、すでに使われているということでしょうか

▼事務局

子育てに関する施策や啓発は健康こども部で行います。健康こども部と情報を共有いたしまして、これをやる、やらないという結果はまだ出ていないのですけれども、市民会議で頂戴した意見を健康こども部に持ち帰っていただき、今後どのようなものが良いかという議論の土俵に上げていただくということになっています。

▽メンバー

ありがとうございます。ご紹介いただいているアプリは、実際に存在しているアプリという認識だったのですが。

▼事務局

はい、すでに公表されているものでございまして、利用されたい方は個人で登録すること

は可能です。市として進めていくかどうか、またご意見にあったように、苫小牧市版を作っていくかどうかという点に関しては、未定でございます。

▽メンバー

ありがとうございます。

▼市長

はい、その他はございますか。よろしゅうございますか。

それでは次に進みたいと思います。先程より話が出ております1万人アンケート、これについてもまず事務局から説明してもらいます。

<「苫小牧市民1万人アンケート～老若男女のリアルボイス」の集計結果について>

▼事務局

「自分らしさ応援 EXPO」の一環で実施しました「苫小牧市民1万人アンケート～老若男女のリアルボイス」の結果についてご説明いたします。資料1の1ページをご覧ください。

グーグルフォームを利用したオンライン調査で、大人版、中高生版、小学生版、未就学児版の4種類を用意し、受付期間6月28日～7月31日の間に、合計941件の回答を頂きました。そのうち855件の回答があった大人版の調査につきましては、統計学上、苫小牧市の人口から算出した信頼度95%（5%の誤差を許容する場合）に必要な標本数は約380件であることから、統計的に有意であると言えます。

ここからは大人版のアンケート結果についてご説明いたします。回答者の属性の特徴としては、75%が30～50代、かつ子育て経験のある方で、約70%は女性でした。

はじめに、男女の「固定的役割分担意識」について分析します。「夫婦共働き」に肯定的な方は約90%でした。「収入の低い方が育児をするべき」には否定的な方が約80%、「子どもを産み育てることが女性の役割だ」に否定的な方は約70%でした。

一方で、「仕事をして家族を養うことが男性の役割だ」、「女性の方が家事や育児に向いている」という問にはそれぞれ約50%の方が肯定的でした。

これらの結果から、多くの方が「夫婦共働き」に肯定的であるにも関わらず、約半数の方々は「男性は仕事、女性は家庭」などに代表される男女の「固定的役割分担意識」をお持ちであることがわかります。

次に、「結婚と仕事」について分析します。結婚をしていない方のうち「結婚をしても仕事を続けたい」と考えている方は約80%、結婚をしている方のうち「結婚後も仕事を続け

たい(続けた)」と回答した方も同じく約80%いらっしゃいました。

しかし、結婚している方のうち、実際に「仕事を続けた」と回答した方は約75%で、およそ5%の方は希望通り仕事を続けられなかったことが覗えます。また、約15%の方は、短時間勤務にするなど、結婚後、働き方を変えていることがわかります。

また、「出産と仕事」についても分析します。お子さんがいない方のうち「子どもが生まれても仕事を続けたい」と答えた方は約75%、お子さんがいる方のうち「子どもが生まれても仕事を続けたい(続けた)」と答えた方も約75%で、多くの方が、子どもが生まれても仕事に対する意欲は変わらないことがわかります。

「育児休業」について分析します。お子さんがいない方のうち、「子どもが生まれたら育児休業を取得したい」と考えている方が85%でした。また、「男性も育児休業を取得すべきだ」と答えた方が約80%でした。しかしお子さんがいる方々の実際は、「出産を機に仕事を辞めた」方が43%、「希望したが育児休業を取得できなかった」方が7%いらっしゃるから、お子さんが生まれた後の働き方は、希望通りとなっていないことが考えられます。

「ワーク・ライフ・バランス」について分析します。「自分が、仕事よりも子どものことを優先させることは構わない」と答えた方が約90%、「職場の同僚や部下が、仕事よりも子どものことを優先させることは構わない」と答えた方も約95%いらっしゃるから、ほとんどの方が仕事よりも子どものことを優先して構わないと考えていることがわかります。

「今すぐ何が変わったら、子育てがし易くなると思いますか」という問いには、「保育園や放課後児童クラブなどのサービスの充実」と答えた方が25%、「勤務日数や時間帯等、働き方の多様性の充実」と答えた方が45%と、保育園等のサービスよりも働き方の多様性の充実が求められていることがわかりました。

以上を踏まえ、「苫小牧市民1万人アンケート～老若男女のリアルボイス」(大人版)の集計結果より、大きく5つのことを読み取ることができました。

1. 夫婦共働き、家事育児の分担に肯定的である
2. 男性は家族を養う、女性は育児に向いている、といった男女の「固定的役割分担意識」がまだ根強く残っている
3. 結婚・出産後に仕事を続けたいと思っている方が多いが、特に出産後には、仕事を思い通りに続けられていない実態がある
4. ほとんどの方が「仕事よりも子どものことを優先しても構わない」と考えている
5. 子育てをし易くするためには、「保育園等のサービスの充実」よりも「働き方の多様性の充実」が求められている

これらの結果は今後、苫小牧市男女平等参画基本計画の中間見直しなど、様々な場面で生かしていきたいと考えております。なお、資料1の最終ページにはアンケートでお寄せいた

いただいた「応援メッセージ」の一部をご紹介します。素敵なメッセージが多くありますので、お時間のある時にご一読いただけますと幸いです。また、このアンケート結果の概要を漫画でまとめた資料と、内閣府男女共同参画局が実施した「令和3年度性別による無意識の思い込みに関する調査結果」の概要もお配りさせて頂いておりますので、お時間のあるときにご一読ください。

説明は以上となります。

▼市長

はい、ただいまの説明についてご意見ございますか。

▽メンバー

ご説明いただきましてありがとうございました。細かい質問で恐縮ですが、男女の役割分担意識については、50%でまさに意見が分かれている、との説明を先程頂戴いたしました。このことについて、例えば男女別だとか年齢階層別にみた特徴などはあったりするのでしょうか。

▼事務局

このアンケートでは、男女別、年齢階層別などのクロス集計は行っておりません。

ただ、これまで室として行ってまいりました様々なアンケート調査の結果においては、年齢が低い方より年齢が高いの方が、固定的役割分担意識を持っている方が多い、という傾向があります。男女比については、そこまで顕著な傾向はみられません。

また、このアンケートでは固定的役割分担意識を持っている方がおよそ5割で、まだまだ根強く残っている、と表現をしておりますが、過去に行ったアンケートでは7割、8割の方々が固定的役割分担意識を持っているという結果が出ていることから、個人的には、過去と比べればかなり、固定的役割分担意識を持っている方が少なくなっているな、という印象があります。

▽メンバー

ありありがとうございます。

▼市長

はい、その他はございますか。

▽メンバー

ご説明ありがとうございました。今回のアンケートは基本的には個人の方に対するアンケートで、それに対する回答があった、ということだと思っておりますけれども、ワーク・ライ

フ・バランスとか多様性ということ考えた時に、この市民会議は、個人に対してアプローチをしていくのがいいのか、それとも、職場、事業者側にアプローチをしていくのか、それによって市民会議の検討の方向性も変わってくるのかな、と思うのですが、そのあたり、個人に対するアプローチ、もしくは、事業者に対するアプローチ、どのくらいの比重で見ればいいのか、何か参考になるようなものがあればご教授いただきたいのですが。

▼事務局

まさに、これから皆様とともに話し合いたいと思っているテーマに直結するところでございます。この市民会議、なぜ立ち上げたのか、というところはまた後程ご説明させていただくところではあるのですが、なぜこの市民会議メンバー、市民・団体・企業の方に入っていたのか、というところでは、企業に特化する、あるいは一個人に特化する、ということ、特に定めてはおりません。そのことから、あらゆる分野の方にお集まりいただいたというところでございます。皆様方それぞれ、企業においては組織の中にいらっしゃると思いますけれども、家に帰れば家庭の一員、地域に出れば地域の一員といったようなことで、要は様々な立場に立たれることがあると思います。どういった立場においてもやはり色々と考えていかなければならない、課題はたくさんある、という中で、いかにしたら、この市民会議として、いい方向に、役立つ方向に持っていけるのかといったようなことを、今後皆様と一緒に考えていきたいということで、今ご質問をいただいた部分については、決まっています、ということで、ご理解いただければと思います。

▽メンバー

ありがとうございます。

▼市長

まさに今ご指摘いただいたことが、これから皆様と協議しながらどういう方向にいくか、ということでもあります。最初はですね、やはり1人1人の意識の醸成、これが重要ですので、これに響くようなことが、市民会議で何かできないか、というのが1つありました。もう1つは、もう少し絞り込んだ中での、企業さま向け、あるいは家庭向けもあるかもしれない、その両面を模索しながら、これから1つの方向性を決めていく、ということです。

当初、この全体ですね、市民会議のというわけじゃないのですが、ワーク・ライフ・バランスの取り組みに対して表彰制度を作っていたんですね。この問題が、時代の流れ、ということ、市民や企業市民にどう知ってもらえるか、ということが、最初は重要なという風に思っていました。そして今日、僕が非常におもしろいなと思ったのは、今紹介した1万人アンケートのまとめの中で、様々なサービスの充実よりは働き方の多様性の充実、というものを求めている、というまとめがあるのですけれども、これって一体何だろう、ということ掘り下げてですね、働いている人たちのニーズ、あるいは時代の要請、というものをし

っかりキャッチしながら、そこに向けた対策、あるいは具体的な動きをしていくことの方が合理的なのかな、と思いながら聞いていました。まさしく今、次の段階で、グループディスカッションでその辺について、皆様からご意見を出していただければと思います。これからの流れについて、事務局から説明をしてほしいと思います。

<今後の市民会議の在り方について>

▼事務局

まず私の方から、皆様方に、この市民会議についてどう思っているのか、匿名でアンケート調査をさせていただきました。言いづらいな、と思われることも真摯に書いていただきまして、我々事務局としては大変ありがたく思っております。そしてまた、先程ご指摘いただいたようなことも含めて、我々事務局の進め方にも良くなかった部分があったであろうという点については、大変反省をしております。いくらコロナ禍だったとはいえ、皆様方へもっと良い発信の仕方があったのではないか、ということも反省をしておりますけれども、やはりこの市民会議を有意義なものにしていきたいということも踏まえまして、これから担当から説明させますけれども、皆様方からいただきましたアンケート内容につきましては、このような形で出るのだったら書かなかった、という風に思われている方もいらっしゃるかもしれませんが、やはりここは率直なご意見ということで出させていただきます、その上で、今後どのようにするのが良いのか、ぜひ話し合っていただければありがたいと思っております。それでは、担当から説明させていただきます。

▼事務局

ここからは、これまでの市民会議の振り返りと、これからの市民会議の在り方について、皆様と一緒に考えさせて頂きたいと思っております。先日、10月下旬頃、メンバーの皆様にはアンケートを送付させていただきました。御回答くださいました皆様ありがとうございました。今日この後の流れですが、まずは簡単に、アンケート結果のご紹介をいたします。次に、2019年3月より始まった市民会議の約3年間の歩みを簡単に振り返らせていただき、最後にグループ毎に分かれワークショップ「新しい市民会議を考える」に進めさせていただきたいと思っております。

ではまずアンケート設問1、「2019年から始まった市民会議について、総評を教えてください」とお聞きしました。選択肢は大変良かった、良かった、どちらとも言えない、良くなかった、全く良くなかった、の5つあったのですが、結果は「良かった」が64%、「どちらとも言えない」が36%でした。

設問2の「市民会議に参加して、良かった点・役に立った点はありましたか」への回答は、「大いにあった」が8%、「それなりにあった」が75%、「全くなかった」が17%でした。設問3では、設問2の理由や詳細をお聞きしました。この点については、「立場の異なる人

たちの多様な意見に触れる事ができたのは良かった」とのお声が多かったです。

設問4「市民会議に参加して、悪かった点・改善してほしい点はありましたか」には、「全くなかった」が25%、「それなりにあった」が75%と、多くの方が、改善してほしい点があったな、と感じられていたことがわかりました。次の設問で伺ったその理由や詳細については、「何が問題なのかわからなかった」「その場で結論を出すべきなのか、継続して議論していくのか、会議のアウトプットをどうすべきなのかわからなかった」「そもそも男女平等の考え方が曖昧ではないか」といった、会議の全体を通じて「曖昧さ」について気になっていた方が多い印象でした。

設問6「来年度以降も市民会議に参加したいと思いませんか」には、「そう思う」が33%、「どちらとも言えない」が50%、「そう思わない」が17%でした。

そして設問6の回答への理由や詳細を伺った最終設問「どのような市民会議であれば参加したいと思いませんか」には、好意的な御意見として、「EXPOのような、市民に直接届く形の方法の検討や実施につながる会議であれば非常に意義がある」「参加者全員が発言し、多様な意見に触れることが出来る会議を継続して欲しい」といったご意見をいただきました。改善案としては、「答えありきではなく、客観的な意見・判断で進めて欲しい」「会議結果がどのように市政に反映されたかが見えると良い」「男女平等とはなにかを明示して欲しい、事業目的を明確にして欲しい」などのご意見をいただきました。また、構成メンバーについて、「参加企業は苫小牧に本社機能を持つ企業に特化すべきでは」「メンバーは特定企業の代表者や個人ではなく、議論するテーマの当事者のほうが良いのでは」といったご意見をいただきました。改めまして、皆様お忙しい中、アンケートに御回答いただき、率直なご意見をいただきありがとうございます。この結果を基に、今後どうしていくか、議論を進めてまいりたいと思います。

ここで少し、そもそもなぜ私たちはこの市民会議を設置して、このように皆様に御協力いただいていたのか、ということ、振り返っていきたくと思います。

市民会議は、およそ3年前の、2019年3月19日にスタートしました。皆様には、各分野の方々、こちらで勝手に人選をさせていただいて、ここまで、多大な御協力をいただいていたという経緯があります。まずは、市民会議設立に至るまでの経緯について、平等社会を推進するネットワーク苫小牧顧問の高橋雅子様よりお話ししたいと思っております。高橋様よろしくお願いたします。

▽メンバー

高橋です。よろしくお願いたします。今見てまして、男女平等とはなんぞ、というあたりが皆様にすっきりと落ちていないんだなと感じました。これは人権です。人権が対等であらう、ということで押さえていただければ間違いないと思います。男女平等とはなんぞ、これは人権が対等であるというところ、ここを押さえてこれから私がお話することを聞い

ていただきたいと思います。

市民会議がどうしてできたか、というあたりなのですけれども、これには古い歴史がありまして、1975年、昭和50年です、その年が国際婦人年の年で、「平等・開発・平和」という理念のもと、女性の意識向上を図るという事で、その先10年間を国際婦人年の年として発足いたしております。苫小牧でも54年から協議会を作りまして、58年には、1983年ですけれども、その当時で、婦人行動計画推進協議会ということで、発足しておりました。協議会が出来て38年、国際婦人年から46年ですね、そういう年月が流れております。その間、婦人行動計画推進協議会から女性自立プラン、それから男女共同参画、そして男女平等というふうに、名称がずっと変わってきているのですけれども、何と言っても1999年、平成11年に、基本法が出来ました。国は男女共同参画基本法なのですけれども、その法律ができて、これは国をあげて、男女共同の社会をつくっていかうということで、これが大きな機転となりました。

それから苫小牧市も条例ができて、その条例の中に、市民団体の責務、企業の責務、行政の責務を謳ってます。憲法というのは国民を守るための法律でありますけれども、基本法という法律はですね、これは、自分たちにも責務があるということ、条例にも責務があるということなんです。それで、苫小牧市の男女平等参画社会を推進する条例の中に、市民団体の責務、企業の責務、行政の責務が謳われてます。それで、私たちはずっと長いことそんな社会を推進してきましたけれど、どうやってここを連携していくかということで、私たちは今から16年前から、企業回りをまずやりました。その中で本当にお世話になったのが、その当時、一番先にお世話になったのが苫小牧信用金庫さんでした。それから出光さん、それから埠頭会社、それからほくでん、本当にほくでんさんにはお世話になりまして、本当にありがたいなと思っておりました。それからトヨタの深沢さんにも大変お世話になりましてね、本当に今こうやって多様な企業の皆様に入っていていただいておりますけれども、ここまで来るのに17~8年かかってここへ来たんです。

その中でも今でも鮮明に覚えて忘れられないことがあるんです。2011年1月20日でした、市長の語る男女平等参画社会の講演会やりましたよね、市長にそれを申し出たら、企業を集められるか、と言われてまして、それで集めます！と言って、それで開いた、市長が、男女平等参画社会というのはこういうものだとして市民に対してお話ししている時に、近い将来、都市宣言をします、と市長がそこで宣言してくださったんです。その時ね、司会やってたんですけど、飛び上がりました、市長ほんとですか、って聞いたら、ほんとだ！、って。そして、2年後、都市宣言をしたのが、今日読み上げた、この都市宣言だったんです。

そしてその都市宣言を終えてから、これは北海道で初ですから、苫小牧は男女平等参画社会を推進するんだっていう、それを宣言したんです、苫小牧市はね。この宣言文もその時の実行委員会が、私がこの一行を考えたの、そうやって繋がったの、なんてね、思い出すんですけども、そういうようなところで、苫小牧は一步一步、条例から始まって、都市宣言をして、都市宣言をした後に、日本女性会議を開きたいということで、それに対しては本当に

みなさん、今日、こうやって集まっていらっしゃる方々が、本当に企業の方々、苫小牧市民も、たくさんの方の協力で、日本女性会議であれだけの成功をおさめる事ができたんです。そして、苫小牧市長が、全国で有名になりました。こういう市長私の街にも欲しい、市長を貸してくださいなんてよく言われたもんです。市長、お手紙あったのでしょうか？(笑)というくらいですね、私たちが全国に出ていくと、苫小牧の市長はすごいねって、本当に岩倉市長さんを私たちの街に欲しいって、本当にたくさんあったんです。今でも私たちが中央に出ていくと、苫小牧は有名になりました。何が何でも有名で、苫小牧さん苫小牧さんという風になったのも、やはり市長の決断だったと思います。この男女平等参画社会を、苫小牧から発信していきたい、その想いがこの市民会議に結びついていったんです。

そういうことで、皆様これからこの話し合いを担っていくと思いますけれども、この EXPO の事業も 2 年前から企画されておりました、これ、細切れのようにやっていますけれども、本当は市民会館で大々的に、ものすごい計画だったんですけれども、コロナ禍の中でそこができなかったんです。そういうことで、細切れのようになったところでポツポツと説明している中で、皆様も分かりづらいたころもあったかと思えますけれども、でもこのコロナで、ちょうどいま考える、これからどうしたらいいんだろう、コロナ禍でどういう風に社会を切り開いていったらいいのかということ、ちょうどいい機会でないかなと、ピンチをチャンスに変えて、これ市長の言葉なんです。ピンチをチャンスに変えろというのはね、市長ずっと言っていました。ですからそれを、今日のこれからのワークの中で、これから何ができるんだ、コロナ禍で何ができるんだということ、話し合っていたきたいなと思っています。そして地域もそうなんです、市内も。何もできないでいるんですけれども、私たちは地域の中でも、今だから考えること、今だからやれることというのがあるということで、今私たちも地域の中でいろんな高齢者の問題だとか、いっぱいありますので、そういうことで同じなんです、この地域もね、苫小牧市内もね。ですので、考え方っていうのは一連のものがありますので、そういうことで何もできなかったではなくって、これからコロナ禍の中で何ができるかということ、ぜひ考えて頂きたいと思います。

それで最後になりますけれども、この 1 万人アンケートの応援メッセージですね、この間 17 日 18 日に、活動センターで掲示されました。読んで涙が出ました。苫小牧市民にこれだけ温かい気持ちで見守ってくれてる人がいるんだということ、もう 1 枚 1 枚泣きながら読みました。とても気持ちの良い、あったかいメッセージが多かったです。苫小牧もあったかい人たちがたくさんいるということで、そういうものを感じましたので少しだけ披露させていただきました。これからのワークを本当に有意義なものにさせていただきたくて、少しだけお話しさせていただきました。ありがとうございました。

▼事務局

ありがとうございます。この市民会議が始まるまでの経緯をお話いただきました。2019 年 3 月に設立した当初は、このような図をお見せして皆様に御参加の依頼を致しております

した。市民会議設立の目的には、「情報交換や相互連携ができる場を持つことにより、市全体の男女平等参画を積極的に推進することを目指すとともに、協働のまちづくりに寄与することを目的とする。」と記載しています。しかし、アンケートでもご意見をいただいていた通り、運営側も参加者の皆様も、年度の切り替え等でメンバーの交代があったり、コロナ禍で書面会議を余儀なくされたりという状況の中で、この市民会議の目的や、皆様にどうして欲しいか、等を明確に伝えられていなかったことが、私たち運営側の反省点でもありました。

そこで、本日は、改めて、市民会議の目的について皆様にお伝えするとともに、この目的を達成するためにはどうすれば良いか、理想的な市民会議の在り方について、皆様から率直なアイデアをいただきながら、より良い市民会議として、新しいスタートを切る準備をしていけたら良いなと考えております。

市民会議設置の目的は、要約すると、今参加していただいているメンバーが、それぞれに直面している男女平等参画に関わる課題を解決すること、これが、結果として、苫小牧市全体の男女平等参画の推進に繋がると考えています。話し合いの経緯や体験を含め、その解決策を持ち帰っていただくこと、メンバーの皆様にはいわばインフルエンサーのような役割を担っていただき、それが少しずつ波及していく。結果、市全体の男女平等参画を推進していく、ということを、私たちは期待していました。イメージとしては、図のような感じですね。左下、男女平等参画に関する課題に縛られている状況から、真ん中、市民会議に参加することによって、立場の違う方々の多様なアイデアや、最新の情報を交換するなどし、私たち事務局はその内容を街づくりに活かす、などの会議を行い、結果、右下、みんなハッピーという状態に繋がっていく、といったイメージでした。

もう一度お伝えします。市民会議は、「メンバーの皆様が直面している男女平等参画に関わる課題について、多様な立場のメンバーと一緒に考え、解決すること」、これを目的としていました。「市全体の男女平等参画の推進に繋げていく」というのは、二次的成果であると思っていただいて構いません。

これをふまえて、今日はグループごとに分かれていただき、「こんな市民会議に参加したい！」をテーマに、皆様に話し合っていたいただきたいと思えます。ここからは、市長と高橋雅子様にはオブザーバーとしてご参加いただきます。高橋様、お席のご移動をお願いいたします。

この後話し合っていたいただきたいことは、今日初めてご参加される方にとっては難しいかもしれないと恐縮ですが、参加当初市民会議に期待していたこと、実際に参加してみて感じたこと、市民会議の理想的な在り方、こんな市民会議だったらもっと良くなるんじゃないか、という主に3つを話し合っていたいただきたいです。30分ほどグループディスカッションをしていただいた後、最後にグループ毎に話し合った結果を発表していただきたいと思えます。発

表いただく内容は、新しい市民会議のキャッチフレーズ『〇〇な市民会議』に参加したい！」と、新しい市民会議の運営手法・メンバー構成などのアイデアなどがありましたら、併せて発表いただければと思います。

それでは今から 30 分間、時間を計りますので、皆様よろしくお願いたします。

▼事務局

ありがとうございました。それでは各グループ 3 分程度ずつ、発表いただきます。A グループからお願いします。

▽Aグループ

Aグループで話し合った内容を報告させていただきます。市民会議のキャッチフレーズとしては、『会議という枠にとらわれない市民会議』に参加したい！」にさせていただきます。

これは、実際にメンバーが参加された、自分らしさ応援 EXPO のワールドカフェのような、オンラインで、小グループで、メンバーの方がファシリテーターを務めて、それぞれ話し合うというものです。やはり課題認識というのは人それぞれであろう、ということで、テーマを1つガチっと決めてしまうよりは、色々なテーマについて、その課題について興味のある人同士が集まって話す方が良いのではないかと、ということ、アンケートに回答されている市民の方もたくさんいるということだったので、今ここにいるメンバーではない市民の方にも、色々思うところがある人はたくさんいるはずだ、ということで、オンラインで自由に参加できる会議の方が、色々な人の意見を取り入れ易いのではないかな、と思いました。年に1回とかではなくて、定期的に、参加したいと思った時に参加できる会議がある、というのが理想的かな、と思います。

また、現在のこういった会議を継続してやっていくのももちろん良いと思っていて、ここはやはり企業同士の情報交換の場であったり、事例を提示してもらえる場でもあると思うので、ここには色々な規模の組織・業界・業種の人が集まって、色々情報交換をできる場として、企業としてはそういう方が役立つということもあるので、そういった場としての会議というのも継続してもらえると大変助かるな、という意見もありました。

簡単ですが、以上になります。

▽Bグループ

まず1点目、この会議に参加するにあたって期待していたことですが、これはやはりそれぞれのメンバーが、人と人とが関わり合うようなコミュニティの中で暮らしていたり、あるいは仕事をしているというような中で、やはりどうしても、男女の役割分担というものもそうかもしれませんが、人として充実した生活・生き方ができるようにするためにはどうしたらいいか、という点で、悩みを抱えてしまう、ということが多いということがございました。

ただそれぞれ、個々人だけでは自分の経験した「箱」の中でしか解決を目指していく事ができないので、やはりその自分の経験を超えた、色んな人の「箱」から、その答え、意見を聞く事ができるというのが、この会議に期待していたこととでございます。

実際に参加して感じたことというのは、今のような期待していたことは語られていて、それはそれで非常に満足ということではあるのですが、ただ、もう少し踏み込んで、個別具体的な事例とか悩みとかも語られると、何が参考になるかというのはわかりませんので、非常に良いのかなということでありました。

改善策というか、こうなったらいいな、というところでは、やはりこの会議には色んな業種の方、色んなバックグラウンドを持たれている方、というのがいらっしゃいますので、男女平等参画というのは、それはまあ中心に置きつつも、まずそこで、人として、男女問わず人としてどう活躍できるか、生きやすい社会をつくっていくか、みんながどんな充実感を感じるような人生を送ることができるか、という、そういう、大きなテーマ、大きくテーマを設定してもいいのかもしれないな、という改善策が出されました。

それらを受けて、キャッチフレーズというのが、「なんでも語り合える市民会議」、ここはもう、何が参考になるかわからないので、色んな話ができるといいなあという意見でまとまりました。以上です。

▽Cグループ

まずはキャッチフレーズですが、Cグループでは「多様性を尊重する市民会議」ということで、アイデアを出させていただきたいと思います。なぜこういうキャッチフレーズになったかということですが、我々の話し合いの中では、1万人アンケートの結果を見ても、家事や育児に対してだとか役割分担のところ、事務局が「役割分担意識が残っている」と結論づけていますけれども、そのこと自体が、何というか、答えありきというか、子育てしたい人もいれば、仕事したい人もいるし、それが女性の役割だと思っている人もいれば、男性の役割だと思っている人もいる、そのこと自体を、何かこういう風に決めつけてしまう事自体が、多様性ではないのではないかと、という意見が出ていました。ですから人それぞれ、環境によって色んな考え方があるので、やはりその多様性をもっときちんと認め合える、尊重しあえる、そういう会議になるといい、という願いを込めて、「多様性を尊重する市民会議」というキャッチフレーズを出しています。

そしてメンバーの構成ですけれども、今のように各種企業や団体の方たちのご参集するこのメンバーはとても素晴らしいなと思います。そのうえで、私たちのグループでは、メンバーというよりは、どういう情報をこの会議で共有できるかが大事じゃないか、という話が出ました。今市内には59ほどの様々な業種の協同組合さんが存在しますので、やはり職種や業態によって仕事の在り方だったり、多様性の認め方というのは、千差万別だと思います。女性の参画の仕方も千差万別ですので、それぞれの協同組合さんから、色々な意見、例えば先進事例を紹介していただいて、それをこの会議の中で情報共有をしていくのもいいので

はないかというお話しも出ましたので、基幹となるメンバーはこういうメンバーで、そしてテーマによって先進事例を持っている業種・業界・組合の方に来ていただいて、こんな風に行っていますよ、っていう情報をここで共有して、またそれを持ち帰るっていう形の方が、この市民会議としては良いんじゃないかということで、意見が出ました。以上でございます。

▽Dグループ

Dグループですが、最初にお断りしますが、キャッチフレーズやメンバー構成などについては、ちょっとまとまっておりません。最初に自分たちの今の状況を発表した後で、色々、今の苫小牧市の現況についてお話しをさせていただきました。

その中で、男性と女性で、苫小牧市の場合、就いている職業、業種に偏りがあるという話で、実際製造業が男女区別している余裕はないのですけれども、現実、そういう状況があつて、やはりそれが子どもたちにも、お父さんはこういう仕事、お母さんはこういう仕事、みたいな刷り込みになっているのではないかと。そういうところがあつて、なかなか苫小牧が、暮らしやすい街ですよとか、子育てのしやすい街ですよ、というところに繋がっていないのではないかという話がありました。

私たちとしては、若い人たちが元気に暮らせる、そうすると老人も安心できる、暮らしやすい街なのだということを、少しこまめに発信する、さっきの1万人アンケートでいうと②番の分担意識というのを、解消していくような、そういう取り組みをもっとやっていった方が、地道ではあるけれど、一番近道なのではないかなということで、誰でも住みやすい街づくりを目指す、あなたのライフプランが作りやすい街ですよ、ということを発信していくような会議にしていけたらいいのでは、と考えました。少し短いのですが、以上です。

▼事務局

ありがとうございます。発表頂いたキャッチフレーズをまとめさせていただきます。

- ・会議という枠にとられない市民会議
- ・なんでも語り合える市民会議
- ・多様性を尊重する市民会議
- ・誰でも住みやすい街であるということを発信できる市民会議

ということで、Dグループはこちらでタイトルつけさせていただきました。このように皆様からご意見を頂戴いたしました。これを事務局で持ち帰り、次回市民会議に向けてまた議論を進めて参りたいと思います。今日は30分、長かったですでしょうか、短かったですでしょうか、お話しをいただきまして本当にありがとうございました。これでワークショップを終了させていただきます。

<まとめ>

▼市長

はい、ありがとうございました。

次の市民会議で、今日のプロセスを踏まえたうえで、来年度以降の市民会議の方向性について改めて皆様と意見交換をしながら、一定の方向、まあその方向はひとつなのか複数なのかというところがありますけれども、ある程度イメージできるようなまとめをして、新年度、令和4年度に入っていければ良いな、という風に考えていますので、よろしく願います。

僕自身は、今日4グループのお話を聞いてですね、なるほどなあと思っているのが、この市民会議という一つのコアの中でこれからできること、何ができるか、ということと、このコアが、17万市民に、何かアピールできるような取り組みができないか、この2つのステージを考えながら、これからまた色々ディスカッションできればいいなという風に考えています。

最後に皆様の方から、男女平等参画に関わること関わらない事でも構わないのですが、何か知っておいて欲しいということがあればご発言いただければと思いますが、いかかでしょうか。

▽メンバー

先程の発表で私とても大事なことを忘れていたのですが、市長が直接こういった会議に参加していただいて、参加者の声を聞いていただけると、この会議自体が素晴らしいことだと思うのです。ですからやっぱり事務局にお願いは、これをもっと宣伝してほしいです。先程私、59の協同組合の方たちの先進事例とお話ししましたが、その声を拾うときも、行政の長たる市長が直接、皆さんのお話を伺える機会がある、こんなすごいことってないと思うのですよね。ですから、市長に直接訴えて、行政の長がその声を直接受け止める、それを今市長がおっしゃったように、何かの形にする、こんな近道な素晴らしい会議はないので、これをもっと事務局の方がアピールしていただくと、市民だったり企業ももっと声を挙げやすいんじゃないかなと思いましたので、すみませんその発表漏れていましたので願います。

▼市長

はい、ありがとうございます。その他、何かございますか。

▽メンバー

今回、ワークショップということで、短い時間ではありましたが、4つのグループに分かれて、本当にお顔も何回かしかお合わせたことがない方、また初めての方と、お話しできたことはすごく良かったなと思うのですよね。こういう大きなテーブルの中で、しか

も市長がいるところで、みなさんご発言くださいというのは大変勇気のいることです。そういう意味では、今後も、短い時間かもしれませんが、皆さんが交流できる、ミーティングができるような時間を持っていただけるととっても、業種が違ううえ、私たちが知らないことを知ることができるというのは本当に素晴らしいことなので、こういう時間は本当に貴重だったと思います。どうもありがとうございました。

▼市長

はい、ありがとうございます。その他、ございますか。

▽メンバー

ありがとうございます。この会議のテーマも、男女平等参画ということで、先程発表のなかでも出ていましたが、企業も多分行政もそうだと思うのですが、人手不足の中です、男とか女とか、若いとか年とっているとか、障害があるとかないとか、言っている場合じゃない。そういう中なので、我々が逆にそういった意識を持っている、というのがあるのかな、というところもありますし、逆に本当に、そういう区別はなく社会は求めている、というところを、もっともっと発信ができればな、発信していただきたいな、という風に思います。

▼市長

はい、ありがとうございます。その他、ございますか。よろしゅうございますか。高橋さん何かありますか。

▽高橋さん

こういう会議を持っているのはね、苫小牧だけです。こういう、市長と直で、顔を合わせて会議ができるっていうのは、苫小牧だけです。誇りに思ってください。そしてみなさん、頑張りましょうね。以上です。

▼市長

はい、それでは、ミッション1、ミッション2のプロセスを経て、今日あらためて市民会議、どうするの、というテーマで色々ご意見をいただきました。次回、そういうプロセスを踏まえてまた皆さんと意見交換しながら、市民会議の行先を決めていきたいと思っております。

いずれにしても、今ご意見も出ましたけれども、本当にこのままでいったら、人材不足じゃなくて人手不足と人手確保の問題が、社会の問題の軸にいまなりつつあると感じていて、これは官民両方ですけども、この問題を解決するにはどうしたらいいんだと考えたときに、日本はそれだけでなくジェンダーギャップが現在世界120位、先進国の中で1番低い、やっぱり女性のさらなる活躍というものを真剣に考えていかないと、もうダメなんじゃ

ないかというところまで来ていると思います。

そういう社会のニーズ、時代のニーズを踏まえてですね、これから我々が発信していけることってどんなことなのかなということ、都市もそうだし企業もそうだし、やっぱりもっと風土を改革していく、あるいは制度を作っていく、そういうことを具体的に取り組んでいかないと、大変なことになる、というこのジェンダーの問題についてですね、危機意識をもっと持っていく必要があるのではないか、そういったプロセスが、伝統的な問題である人権の問題、あるいは教育の問題等々の引き上げ、解決に繋がっていくのではないかと、というふうにも思います。現実的なアプローチをする中で、本質的な問題を、この国として解決していけるのではないかということを思いながら、この数年、男女平等参画について考えているところであります。

また次の機会に、皆様から多様なご意見をいただければと思いますので、今日はちょうど、時間オーバーしてません、3分前です(笑)。3分前ですが、お忙しい中お集まりいただきまして本当に感謝を申し上げ、閉めたいと思います。ありがとうございました。